

いまもあしたも誇れる座間であるために...

発行者：おぎはら健司
発行元：座間市相模が丘3-24-2-203
連絡先：046-204-5911 (ファックスも同じ)

おぎはら健司の市政リポート

平成25年度決算認定について。

久しぶりの駅頭での広報活動になりました。9月に入ってから、気温の寒暖差が激しくなり、不注意にも風邪をこじらせてしまい、絶不調の日々が続きましたが、会期中ということもあり、議会活動に専念する為に他の活動を控えておりました。季節の変わり目ですから、皆さんもお身体をご自愛の上、ご活躍下さい。

さて、8月28日(木)に開会いたしました平成26年第三回定例会も、総括質疑、一般質問、常任・特別各委員会審議も終了し、役員改選のための議会運営委員会と閉会日を残すのみとなりましたが、今定例会の最も重要な議案は「平成25年度決算審査」でした。

その名のとおり、昨年度の座間市政の執行状況について、その必要性や的確性などを審議する議会ですが、今回は提案された議案に対し、会派を代表して総括質疑を行わせていただきました。ご興味のある方は録画中継もご覧いただけますので、座間市のHPからご確認下さい。

昨年度決算状況から見てくる、座間市の財政状況や事業執行状況、課題等について、私なりの考えを踏まえつつ、数回に分けてリポートして参ります。

まず、平成22年度から継続してきた実質単年度収支は、昨年度も達成されました。この年度の黒字額は、3億8,088万2,156円で、平成25年度末の基金残高は14億7,456万1,211円となりました。この財政調整基金というのは、一般的には標準財政規模の10%、座間市で言えば22億円程度が理想とされておりますが、平成23年度には3億円余にまで減少していたものが、ここまで回復をしました。

過去のレポートや所属する新政いさまの会派広報紙等で説明した通り、この財政調整基金は国が示す補助金等に迅速かつ的確に対応するために必要となる、いわば頭金のような性質も持ち合わせており、この基金を活用した成果は、市内小・中学校への空調設備設置の前倒し工事等にも表れており、平成25年度の国の大型補正予算や平成26年度当初予算に於いても同様に基金を活用し国庫補助を引き出しています。

歳入総額365億9,779万1,387円の49.0%を占めるのが、歳入の根幹である市税収入(個人・法人市民税、固定資産税、都市計画税、軽自動車税、たばこ税)で、全てを合計した金額179億4,346万5,328円は、市民一人当たり平均すると13万8,149円ご負担を頂いていることとなります。他の主な収入が占める割合は、国庫支出金が18.1%、地方交付税が6.2%、県支出金が5.3%と続きます。

一方、歳出総額358億7,293万3,653円の用途を大分類していくと、教育費(9.0%)、インフラ整備や町づくり等に使われる土木費(7.9%)、保健行政・環境行政に使われる衛生費(8.6%)を大きく引き離して、社会保障のための支出を主なものとする民生費が44.4%、市民一人当たり平均すると12万2,699円が使われている計算になり、本市に於いても増大の一途をたどる結果となっています。

これからの課題は、社会保障費を適正に保つための施策の充実と市民意識の啓発にあると考えます。

基地対策特別委員会の任期終了

昨年10月から今月いっぱいまでの間、座間市議会基地対策特別委員会の委員を拝命し、本市の基地対策行政について審議をする機会に参加する事が出来ました。今回の経験で改めて感じたのは、基地に対する価値観の差というのは、議員それぞれで大きく違うという事でした。

「基地そのものが不要、いますぐ撤退を!」という考えから、「国の安全保障上、必要不可欠だが、その在り方には検討の余地あり」という考えまで十人十色です。ちなみに私は後者です。

2月に伺った在日米空軍横田基地や5月に視察に伺った広島県呉市では、基地との共存共栄という認識が定着しておりまして、8月に訪問した横須賀市でも同様に感じました。

本市においても、市民の理解は年々深まっていると感じておりますが、基地が存在するメリットとなる部分については伸ばし、市民が負担に感じている部分については、軽減が図られるよう、引き続き取り組んで参ります。